

「第二次ビジョン」へのパブコメ

2019-1-17

馬場 伸一

私は生まれて以来、現在まで70年間のほとんどを練馬区に住んできました。

静かで緑の多いこの住み良い環境を守るべきと思っております。

また、車いす生活の娘がおり、障害者への対応を充実する必要があります。

「緑の風吹くまちビジョン」が出されて、この名前に期待するところではありますが、実際には期待外れの所が多々あり残念です。

中でも50年も前に計画された大型道路、放射35号線延伸部（通称「タテ3」）建設を急ぐとされていることに大きな疑問があり、この計画は中止すべきです。この道路は住民のためのものではなく、域外の交通を引き込むものです。しかも東京近郊の交通環境は、輸送環境・方式が大きく様変わりしています。大型道路である外環道や圏央道などが作られ練馬の交通量は年々減少しています。近辺では放射36号線の建設が進んでおり、練馬では既に大型道路の需要が無くなっていることをしっかり認識すべきです。なぜこのタテ3が計画されたかの根拠もはっきりしません。

タテ3計画地は現道の無い住宅地が多く、貴重な文化財、緑地も存在し、道路建設はこれらを破壊し、地域を分断します。これからの社会において「地域」が大切なものであることを理解すべきです。

タテ3計画時は殆どが農地でしたが、現在は住宅地になっており、地域住民の負担は過大です。十分な補償がされない、用地買収されない狭小な使いようのない土地が沢山発生して、全て所有者の負担とされることなど、負担を住民に押し付ける買収制度が適用されます。

タテ3は練馬と桜台を分断します。娘は車いすで毎日練馬方面に行っていますが、大型道路ができると横断することが大変なバリアになります。道路には段差や点字ブロックが設置されて、車いすなどの通行の支障になります。

練馬区は視覚障害者優先の姿勢で、これも改善の必要があります。車椅子だけでなく、高齢者、ベビーカー、など通行に支障のある方も多くいることに殆ど配慮がありません。段差や点字ブロックなどがあり、通行に支障があります。怪我をして一時的に松葉杖を使う場合もあり、円滑な通行に支障があるだけでなく、つまずいて転倒するなど安全の確保にも支障があります。

また、大型道路建設が緑化になるとの考えの様ですが、木の密度が低く、樹種が限られることもあって、道路建設が緑化になるというのは無理です。

現在の道路に問題はあります。緊急車両が入りにくい、曲がるのが大変など改善すべきところが多々あります。木造住宅の密集地も残されています。これらの改善に予算が必要になります。大型道路を建設しても、これらの問題は解決しないので、生活道路の改善に予算を回すべきです。

前川区長は長年の行政マンとしての手腕を発揮してこれれとのことですが、その仕上げとして「ビジョン」を位置付けておられるとのことですが、住民の意見をくみ上げ、実現することはあるのでしょうか？

区民協働との言葉もありますが、区民の意見をしっかり聴き、実現することに繋がるのか？区長の個人的な願望を押し付けることになっていないでしょうか？しっかりお考えいただきたいと願います。

以上